

- [2018 年度助成] 久保田香奈先生 (自治医科大学内科学講座循環器内科学)
- [留学先] Royal Brompton Hospital(英国、ロンドン)
- [留学期間] 2019 年 4 月～2021 年 3 月の予定で留学。
- 2020 年初頭からの Covid 19 感染の世界的な蔓延に伴い 2020 年 3 月に一時帰国、その後 2020 年 9 月までテレワークで研究を継続。

=====

(2021 年 7 月掲載)

#### 海外留学報告記

久保田香菜 (自治医科大学内科学講座循環器内科学)

Royal Brompton Hospital(英国、ロンドン)は古くから先天性心疾患の研究・治療の最先端として知られ、現在も欧州で最大級の成人先天性心疾患センターを有する施設です。今回私は同院へ、循環器内科医として成人先天性心疾患についての最先端の臨床技術を習得することを目



的として留学しました。私に与えられた研究テーマは、同院で 2003～2018 年に成人症例に対して施行された肺動脈弁置換術について、用いられた人工弁による予後の違いを比較する研究でした。本邦では使用が認められていないホモグラフト、ウシ心膜弁、ブタ心膜弁など 5 種類の弁を比較し、ブタ心膜弁がやや劣化が早いことがわかりましたが、統計学的な有意差はありませんでした。また全体的に肺動脈弁置換術自体の症例数が徐々に減少しており、これには本邦では

治験段階である経カテーテル的肺動脈弁置換術が近年盛んに行われていることが背景として影響している可能性が示唆されました。

私の場合は身近に英国へ留学経験のあるドクターが居なく、EU 離脱に伴ってビザや医師免許の取得方法が大きく変化していたため、そういった情報を自力で集めなければならなかったことに苦労しました。また無給の研究者という中途半端な立場だったため銀行口座を開かせてもらえなかったり、慣れない英語でのコミュニケーションに苦労したりと、苦しい思いもたくさんしました。特に Covid 19 の騒動が始まった当初はアジア人差別が顕著になり、街中を歩くのに常に気を付けなければならず、精神的につらいこともありました。しかし、留学先には世界各国から成人先天性心疾患を志す医師が集まってきており、彼らとの交流は大変興味深いものでした。文化の違いや社会制度の比較など毎日話題は尽きず、仕事の後にパブで語り合ったこともあります。日本にいただけではわからない各国の事情や問題点、その解決法など、視野が広がりました。逆に日本の良さを実感することも多くありました。

Covid 19 の蔓延のため現在留学を考えていらっしゃる若手の先生方は、非常に不安な思いを抱えていらっしゃると思います。もちろん安全を確保してからだとは思いますが、海外留学には苦労を上回るような得難い体験があります。ぜひつらい時代を乗り越えて、世界へ飛び出して行ってほしいと思います。この度は貴学会より海外留学助成を賜りまして、誠に有難うございました。この場を借りまして、厚く御礼申し上げます。